

モラルの会資料

下山保

1、言い残さなければならぬことがある

(1) 言いたくない (戦中人の心理)

- ・ かつこ良いことは言にくい
- ・ かつこ悪いことは言いたくない
- ・ 思い出したくもないことは忘れたい

(2) 言い残すべきこと「戦争体験」が喪失の危機

①東京大空襲 (広島、長崎に匹敵)

- ・ 他人を省みず逃げた (親子兄弟をも見捨てた)

②疎開

- ・ 強い者が生き残った (ひとの食べ物も奪った)

③旧満州

- ・ 子供を置きざりにした
- ・ 中国人に売った

④南方

- ・ 戦友を見捨ててきた
- ・ 人肉を食って生き延びた

2、歌を忘れたカナリヤ

(1) 鳩山政権

- ・ 市民参加の消滅 (市民目線が見えない)

政権運営への不参加、政策化、政策実現への不参加

(2) 生協

- ・ 相互扶助の喪失「生協は格差社会の共犯者か」・運動の喪失

(3) 国民

- ・ 戦後スタート原点の喪失 (「平和を得た犠牲」の風化、平和意欲減退)
- ・ 戦後民主主義の喪失 (高度成長の中で「戦後」を捨てた)

(4) 地方

- ・ 「一票格差」憲法違反判決

多数決民主主義原理と少数派尊重民主主義の落差

多数決—都市の論理、20世紀型民主主義

少数保護—地方の論理、21世紀型民主主義

(5) ひと

- ・ 文字文化 (紙の本を読む、紙に鉛筆で書く、ナイフで鉛筆を削る)
- ・ 食文化 (米を食う、野菜を食う、包丁を使い炊事する、田畑を耕す)
- ・ 労働文化 (作る、造る、身体で働く)
- ・ 村文化 (隣人、群れる、共同する)

モラルの会懇談会レジメ（4月26日）

ドロボーは悪か

下山保

1、私の人生原点

旧満州体験（3～8歳）

二度の死線（大地の子）

妻の東京大空襲（8月8日）体験

2、学生運動（60年安保）

共産党、ブント、拘置所、除名

3、社会党時代

分派闘争、除名

4、生協活動30年

唯一の生産的活動

立脚点—「多様性の共存」への到達

左翼の体質……正しいのは一つ

落ちこぼれ

窮余の策「個配」

異端のDNA

5、ドロボーは悪か

競争と相互扶助

5、人生あと10年

先祖がえり……60年安保同志との再会

無残な左翼崩れ

消滅した運動

民主運動再生

三つ目の松下村塾

運動に経営思想を

民主運動基金

「遺言状運動」を基本とする「9条・民主運動基金」設立趣意書

現在、日本の諸民主組織は衰退しています。組織の弱体は民主運動を後退させています。運動を再生させるためのあらゆる努力がなされなければなりません。私たちは、年金生活者や高齢者です。また私たちの人生は、平均寿命であると10数年です。望まなくとも骸と化すまでそんなに時間はかかりません。それでも私たちには、かつては安保闘争や全共闘の闘争で青春の血を沸き立たせた思い出を持っています。何かをしなければ死に切れないはずです。

しかし、私たちが民主運動再生のために出来ることは、そう多くありません。余り時間がなく、体力が衰え、金も無いからです。この「時間がなく、体力がなく、金が無いという三無い条件」を逆手に取り、この条件を活かすやり方を考えました。それが「9条・民主運動基金」の設立です。基金と称するには、原資としてそれなりの金額が必要です。その原資を確保する運動が「遺言状運動」です。

生活にゆとりの無い私たちが、持ち金の中から原資を拠出するのは困難です。しかし死亡すれば保険金などが残されるし、人によっては相当額の香典が入ります。その中から基金に寄付することを遺言していただくのです。

また団塊の世代はこれから退職者が出てきます。団塊世代は全共闘世代でもあります。かつて日本の社会を揺るがし、社会改革の役割を果たした人たちに、退職金からのカンパも期待します。

私たちに、美田を残すゆとりの持ち主は多くいないでしょうが、死後に財産を残しても意味はありません。むしろこれからの民主運動に期待し、私たちに続く若者たちに期待し、そのため可能なかぎりの運動資金を作っていこうではありませんか。

虎は死して皮を残す、といます。かつて咆哮をあげた虎の皮に相応しく、基金への拠出金は一口100万円を予定したいと思います。

なお、生命保険もなく、香典も余り期待できない方には、「生前葬」をお勧めします。

皆さん、残った人生を9条運動など民主運動で楽しみましょう。そして、いささかなりとも民主運動を繋ぎ大きくするための基金を残し、心安らかに閻魔様のもとに行きましょう。

2009年11月27日

9条・民主運動基金設立準備会